

施策	4301 予防対策の強化						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	余地有	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	各種健診や予防接種の実施、新たな感染症の発生・拡大を防ぐ意識啓発や体制づくり、生活習慣病の予防等を図る。						
成果指標	国民健康保険人間ドック（一般、脳）受診者数・・・900人（現状値851人） 国民健康保険特定健康診査受診率・・・55.0%（現状値27.8%） 後期高齢者健康診査受診率・・・30.0%（現状値23.5%）						
目 標 達 成 状 況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	成果指標1 [人]	予定	900.00	900.00	900.00	900.00	900.00
		実績	932.00	1,020.00			
	成果指標2 [%]	予定	33.20	38.70	44.10	49.60	55.00
		実績	26.70	28.70			
		単位コスト	31,282.32	32,155.26			
	成果指標3 [%]	予定	26.00	27.00	28.00	29.00	30.00
		実績	21.07	23.00			
		単位コスト	39,641.10	40,124.17			
	成果指標4 []	予定					
実績							
単位コスト							
トータルコスト (千円)	予定	907,352	922,856	916,245	0	0	
	実績	835,238	922,856	916,245	0	0	
内 部 評 価	貢献度	人間ドック受診費用の助成や各種検診の受診率の向上は、日頃の健康管理への動機づけや早期治療につながり、予防的な施策として健康づくりの充実に貢献する。					
	達成状況	人間ドック受診者数は、目標を超えることができた。国民健康保険特定健康診査及び後期高齢者健康診査の受診率は、目標を下回ったが、上昇傾向にある。					
	課題	国民健康保険特定健康診査及び後期高齢者健康診査は、年に1回の健康診査として対象者の受診意識を高めていく必要がある。					
	取組方針	市民への情報提供、啓発等を行い、予防接種や各種健（検）診、人間ドック等の受診者の増加、受診率の向上を図りたい。					
外 部 評 価							
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	132601	健康啓発事業費				358	100
	134401	後発医薬品利用差額通知事業費				996	100
	145901	健康診査事業費				60,773	100
	270101	健康診査事業費				222,502	100
	271101	予防接種事業費				429,553	100
	271201	新型インフルエンザ対策事業費				8,785	100
	717701	データヘルス事業費				11,084	97
	132701	人間ドック検診事業費				23,124	90
	271506	狂犬病予防事業費（岩舟）				4,606	90
	271502	狂犬病予防事業費（大平）				1,536	88

単位施策評価表 補表

施策	4301 予防対策の強化		
区分	妥当性	妥当	予防接種法や健康増進法、高齢者の医療の確保に関する法律法令で、市での実施を求められている。
	コスト削減の余地	無	受診者の増加、受診率の向上で、コストは上昇する。
	受益者負担	余地あり	検診自己負担金の増額等は可能ではあるが、受診率の低下及び近隣市町負担金とのバランスに注意が必要。
	上位貢献度	有効	病気を未然に防ぐ予防接種、病気の早期発見・早期治療により重症化を予防する健(検)診等は、健康づくりの充実に貢献する。
	類似事業の有無	無	関係法令で市が実施することとされており、類似事業はない。
	成果向上の余地	有	健(検)診受診率の向上の余地がある。
内部評価	貢献度	病気を未然に防ぐ予防接種、病気の早期発見・早期治療により重症化を予防する人間ドックを含む健(検)診は市民の健康づくりの充実に貢献したと考える。	
	達成状況	市の助成を使った人間ドック受診者数は、募集定員を増やすことで年々伸びてきており、目標値を上回ることができた。 国民健康保険特定健診受診率は前年度(H30: 26.70%)と比べ微増しているものの、目標値には届かなかった。 後期高齢者健康診査の受診率は、前年度(H30: 21.07%)と比べ微増しているものの、目標値には届かなかった。	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年代や環境、考え方によって健診受診に対する意識は様々であり、画一的に受診を強制することはできないが、自分自身の健康状態に興味を持つように促すことで、年に1回の健診受診の意識を高めていく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の流行により、感染症対策に重点を置いた事業の実施が必要となる。 	
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・人間ドック受診者への助成は、見直しながら継続する。 ・広報紙やホームページを使った広報活動のほか、個別通知による受診勧奨(コール)、再勧奨(リコール)を関係機関と連携しながら効率的に行い、受診者数の増加、受診率の向上を図っていく。 ・集団検診において、新型コロナウイルスを始めとする感染症対策を十分に行い、安心して受診できる環境を整える。 	